

「医療のながれ」「診療録管理」「医療書類作成のポイント」「接遇とマナー」等、どの講義においても、後進の指導時に業務を行う上での根拠や手法を明確に伝えるためのヒントが満載でした。また「海外における医師事務作業補助業務」では新たな視点で自院の業務内容を見直す事ができ、「保険診療」は、今年の診療報酬改定について医師事務作業補助者の視点で解説をしていただき、大変興味深いものでした。

なお、コーチングではコミュニケーションにおいて相手を受け入れることの大切さを改めて学びました。

注目のワークショップでは第1クールで「教育体制と能力評価」、第2クールでは「病院経営への貢献」というテーマに対して、日本全国から集まった参加者の方達とグループで意見交換をしながら、一つの結論にまとめ上げた後、各グループの発表を聞いていきました。その過程でお互いの状況や抱えている課題等について情報交換ができ、また同じ医師事務作業補助者という立場での様々な思いを共有・共感できたように感じました。

各グループの発表内容や先生方が示してくださった事例を参考に、自院において医師負担軽減、働き方改革に繋がるよう、医師及び他職種の職員と連携しつつ医師事務作業補助者の役割を今後も果たしていきたいと思えます。大変有意義な講習会を開催していただいたことに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

## 支部学術集会開催報告

### 第14回新潟県支部学術集会

学術集会会長：新潟市民病院患者総合支援センター長  
倉林 工

2024年9月7日(土)朱鷺メッセ新潟コンベンションセンターにて、学術集会テーマを「『いきたいように生きる』を支える」として開催致しました。基調講演では在宅ケア移行支援研究所の宇都宮 宏子先生から「この町で暮らし、最期まで、わたしらしく生ききりたいを実現するために～意思決定を支え、思いをつなぎ、叶えていく～」と題して熱量のあるご講演を頂きました。その後のシンポジウムでは、訪問看護ステーションふくふく代表の松井 美嘉子先生、ケアプランセンター春介護支援専門員の阿部充子先生、新潟市民病院救命救急・循環器病・脳卒中センター副センター長の吉田 暁先生より「『生きる』を支える現場から」と題して、それぞれ心に響く事例や課題をお示しいただきました。7題の一般演題では、今後いかにして「『生きる』を支える」対応をしていくか考える機会となりました。会場内で多くの仲間と知り合い、活

発な討論が行われ、参加者114名にとって有意義な時間になりました。本学術集会在がこれからの新潟県内の医療の質の向上に何らかの形で貢献できることを期待します。開催に際しご支援ご協力を賜りました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

### 第12回福島県支部学術集会

学術集会会長：福島労災病院病院長 齋藤 清

2024年9月28日(土)にいわき産業創造館におきまして、第12回福島県支部学術集会を開催しました。テーマを「医療安全とコミュニケーション」とし、203名のご参加をいただきました。



会場風景

特別講演は、北九州市立大学特任教授の松尾 太加志先生に医療安全におけるコミュニケーションの重要性を中心とした貴重なご講演を賜りました。また、ランチオンセミナーでは、竹田綜合病院の田中 さゆり先生に「感染防止対策部門からみたウィルス性肝炎の結果説明の重要性について」、福島県立医科大学の阿部和道先生に「C型肝炎治療の変遷と肝炎ウィルス陽性者拾い上げについての当院の取り組み」についてご講演を賜りました。

一般演題は、医師の働き方改革支援やLGBTに対する取り組みなど最新の有用な情報を含めて32題の発表があり、安全管理、医療連携、救急対応、職場環境など各施設で実施されている取り組みの成果が提供されました。最優秀賞には、大原医療センターの高野明子さんの演題「リハビリ見学における家族とスタッフのより良い情報共有を目指して」が選出され、盛会のうちに終了することができました。

本学術集会を開催するにあたり、ご支援ご協力を賜りました関係各位の皆さまに心より感謝を申し上げ、開催の報告とさせていただきます。

### 第29回岡山県支部学術集会

学術集会会長：津山中央病院病院長 林 同輔

2024年9月28日(土)、日本医療マネジメント学会第29回岡山県支部学術集会を津山中央病院健康管理センター慈風会記念ホールにて開催いたしました。今回のテーマは「地域で取り組む持続可能な医療体制の構築」とし、岡山県内外から187名に参加いただきました。

特別講演には、「医療政策の方向性 ～令和6年度診療報